

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456		
法人名	(株)ささき		
事業所名	グループホーム みらい (1Fユニット)		
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和3年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日常的な外出を支援し、毎日散歩を兼ねて買い物に出掛ける様にしている。が、今年度は新型コロナウイルスが全世界で広まりいつもの様な生活がままならない状況にあり、職員一丸となって、施設に持ち込まないよう、感染対策に取り組んだ一年でした。衛生委員と管理者で月に一度ウエブで感染対策部会を設け、1F・2Fで情報交換を行っています。施設の中で出来る事をほんの少しの楽しみとし、お弁当を作って庭で食べたり、たこ焼きパーティーをして、利用者様と共に楽しんだりしました。

GHみらいが誕生して17年目になると聞いた。妹尾の中心街に近い所に開設した当時は、近隣の方達に“グループホーム”という介護施設への理解も少なく、当然の事ながら当時の職員さん達は、この地に受け入れてもらえるまでは色々な苦勞があったと思う。しかし、職員はめげず事なく、こつこつと利用者本人・家族、そしてこの地域を大切にしながら実績を重ねてきた。厨房に入って、いなり寿司を手際よく作る男性利用者・利用者同士の思い遣りが感じられる会話・職員の利用者に対する丁寧な声掛けや態度等を目の当たりにして私自身、感慨深い思いを覚えた。コロナ禍の今も、緻密な計画と実践で利用者の皆さんの笑い声がリビング一杯に鳴り響いている明るく楽しいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールの見えやすい所に掲示。理念に基づき、利用者と関わる様努力している。また、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごしていただいている。	ある職員の発言をきっかけに利用者に対してだけでなく、「職員間でもなれなれしくなりがちな朝の挨拶等をきちんとしよう」が実践出来るようになった。理念に掲げられた言葉が空回りせず、日々の生活の中で活きている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の資源ゴミ当番に参加。新型コロナの影響で、他の交流は行っていない。	ホームの理念の一つに「地域との交流を大切に・地域に開かれたホームに」が掲げられているが、コロナ禍の為、現在は計画した交流がほとんど実施出来ない。但し、例年実施している公民館での利用者の作品展示をさせていただいたと聞いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館に近隣のGHと作品展示。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナの感染対策にて、一度だけ西ふれあいセンターの研修室を借り、対面で行った。感染拡大時は書面会議で行った。	グループホームでは、多分何処も集合せず書面での会議を実施していると思う。もちろんこのホームでも毎回綿密な資料・提案等を参加者に送付し、意見や要望を送ってもらうようにしている。	コロナの感染拡大時に書面会議で行うのは当然の事だが、家族や町内組合員からの意見や提案が多く内容も良い。これらの報告を家族に送付している事も嬉しい。ホームの運営に関する報告を家族にも周知してもらう方針を今後も続けて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほとんどが書面会議だが、日々の取り組みや問題点を報告。実績など知っていただいたうえで、助言を頂いている。	今年度の市町村からの指導や連絡は、大半がコロナ関連の内容で、ホームの立場としても利用者・職員共々感染者を出さないよう、万全の対策を講じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、職員全員が意識している。運営推進会議、身体拘束適正化検討委員会で話し合い、職員全員が理解する様にしている。不適切ケアについては何度も話し合いをしている。	もちろん、禁止の対象となる具体的な行為はないが、利用者の心に響くような適切なケアや声掛け等の対応について「スタッフ会議録」に記入し、今後のケアにつないでいる。	目標達成計画の中でも優先順位を1位として取り組んできたが、身体拘束禁止から「接遇マナーの改善」に発展させてケアの向上を狙う姿勢や実践が素晴らしい。さらにステップアップして下さい。一人ひとりの尊厳につながると思うので。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修のみだが、職員は虐待防止について、勉強会で学び、理解と共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は居ないが、今後も学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書等の内容を説明し、理解・納得をして頂き締結にあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会、カンファレンス、運営推進会議等で意見、要望を聞けるように機会を持っている。	面会時や電話・その他日常的な場面での家族との話し合いの時には、できる限り話しやすい雰囲気を作るようにしている。また、日常の暮らし方が理解してもらえるように、写真も交えて「家族への手紙」を送り、意見や要望も伝えて欲しい旨、連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と統括とは年2回職員との個人面談する機会を設けている。要望や相談があれば述べている。可能な事は反映されている。	気になるケア・不適切なケアと感じられるケースについてはスタッフ会議で話し合っている。また、場合によっては早めに朝の申し送りの時等に提案して相談し合うようにしている。年2回の個人面談もそれぞれに有意義な話し合いの場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との個人面談での意見や要望を聞き取り、可能なものについては、改善し働きやすい環境整備に努めている。就業規則は何時でも見る事ができる所に置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は前年度に比べてとても少ない。内部研修は、月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、コロナの影響で回数は少ないが、地域のGHの管理者と情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り要望を聞く様にし、入居後関わりを十分に持ち信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話で話をよく聞き、困っている事、不安や要望に耳を傾け、思い等確認し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をよく聞き、本人の現状もよく聞き必要な支援内容について提案、説明を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて出来る事を無理のない程度に手伝い等してもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や2ヶ月に一度の手紙で、近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、なかなか馴染みの人とは会えていない。	今のコロナ禍にあっては家族の面会にも制限を設けざるを得ない状況ではあるが、事前予約、時短、面会場所の確保、感染対策等、いろいろ工夫をして馴染みの人との関係を途切れさせないように努力している。	面会が制限される中、利用者の生活の様子をお伝えしようと、一人ひとりのDVDを作成したと聞き、出来たばかりのDVDを見せてもらった。家族との絆を大切にしているホームの姿勢を感じた。今だからこそ出来る事をしっかり実践して下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を築けるよう席を決めている。気の合う者同士で過ごせる様に努め、トラブルにならない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、コロナの影響でなかなかお会いする機会ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話を通して、本人の思いや要望を把握し、可能な事は希望に添えるよう努めている。	毎年、利用者の担当職員が主となり思いや要望等を聞いて「今の私」を作成し、職員間で共有している。例えば「料理をしたい」人には台所に立って家事を手伝ってもらう等、その人の思いを受け実現に向けた取り組みをしている。	運営理念にもある「感謝の気持ちを伝える」実践として、利用者一人ひとりに感謝状を渡したとの事。文面からも日頃から利用者の思いや行動をよく把握している事が分かる。満足感につながり、とても良い企画だと思う。これからも続けて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りやフェイスシート等で把握、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は記録に残し、気になる事は申し送る様にし、職員全員が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を聞き、介護計画を作成している。職員の意見も聞いている。又、状況の変化があれば、期間に捉われず見直しもしている。	本人・家族とよく話し合い、ホームでの生活の意向や希望を基に、ケアプランのニーズ(課題)を掘り起こし作成するように努めている。定期的にあセスメント、モニタリングを行ない、日々の状態を職員間で話し合いながら現状に即したケアプランになるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践できた事は介護記録に残し、実践できたかどうかは、介護支援チェックシートを活用し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族共に会うこともままならず寂しい思いをされているので、ご家族には毎月の利用料の請求書を発送する際、日常のお写真を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でほとんどできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院できる利用者は、職員が付き添う。通院が難しい方は、往診していただいている。同行して下さる家族もいる。	本人・家族が希望すれば従来のかかりつけ医を受診してもらっているが、ホームの協力医を主治医としている人が多く、定期的な往診もある。他科受診や家族の付き添いが必要な方には協力をお願いする場合もある。週1回の訪問看護もあり、医療・看護と連携が出来ているので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に1回/wの健康チェックを行なってもらい、指示・指導を受け、日常的な健康管理を行っている。気付いた事は、看護師に伝え相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を提供し、入院中は面会に行き、医療関係者や、家族から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には事前に医師、看護師、家族と話し合いはしている。説明した時は確認書にサインをもらっている。また、必要に応じて再確認している。	開設17年の間には、10数名の人がホームから旅立ち、職員もそれぞれのケースにしっかり寄り添い最期まで心を込めてケアをしてきた。最近も100才近い方の看取りを行ない、家族が面会にきてくれた翌日に老衰で他界。残念ながら今年はお出来なかったが、家族参加の「看取りについて」の勉強会も定着してきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は訪問看護師の指導で訓練している。、何が起きても対応できるよう意識し仕事をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回火災・地震・水害の避難訓練を行なっている。どうすれば安全に避難できるか？また、どう改善すればいいか？その都度振り返り安全策を模索している。	今年度から避難訓練の回数を増やし4回実施。火災・地震・津波・水害等、あらゆる災害を想定して行い、避難経路も外の非常階段を使用したり、安全な避難方法等を検討している。また、いつでも迅速に対応出来るように日頃から勉強会も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや関わりには気を付けている。特に排泄時は、他者が入らない様気配りしている。	入浴や排泄介助時には特に羞恥心やプライバシーの確保に気をつけ、肩や下半身にバスタオルを掛ける等の対応をしている。また、申し送り時にも氏名ではなくイニシャルを使用して話したり、居室のドアを全開にしない、不必要に開けない等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、会話をする事で思いを汲み取り、可能な事は実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールに沿って生活しているが、自由な時間には、好きなテレビを見たり、本人のしたい事を出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度散髪の訪問を利用している。衣類の選択等できる方は自分でしていただく。できない人は、髭剃りや整髪を介助したり衣類の選択を支援している。また、食べこぼし等で汚れた時は、その都度着替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き等、個々の能力に応じて出来る事をしていただいている。旬の食材や彩りにも気を付けて盛り付けをしている。	時に、各ユニットで献立が違うのも楽しい。2階の厨房ではエプロン姿の男性利用者が手慣れた手つきで“こんこん寿司”作り。生き生きと楽しそうな笑顔が印象的だった。いつもは利用者さん達と一緒に食事を戴いていたが、今年度は別場所で食事。しかしリビングから楽しい団欒の様子が伝わってきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、必要に応じて水分量をチェックし気をつけている。栄養バランスを考えた献立を作り、嚥下能力に合わせた食事形態で提供し、必要量摂取できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助の必要な方は職員が介助。2回/W義歯洗浄剤を使用。訪問歯科を利用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が増えたからといってすぐに紙パンツや大きいパットに変えるのではなく排泄リズムの確保に努めオシメの使用を減らす様に心掛けている。	排泄が自立で布パンツを維持している人も数名いるが、紙パンツや紙おしめの人もいて、その人の排泄状況に合わせてパットの種類も変えている。殆どの人はトイレ座位での排泄が可能であり、適宜な声掛け・誘導で自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1ℓ以上の水分摂取や毎日の体操を行っている。便秘気味な方は、3～4日に一度は便が出る様便秘薬で調整している。適度な運動の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日時は大体決まっているが、本人の気がすまない時は、時間をずらして再度声掛けする。違う職員が声を掛けたり、別の日に入浴してもらっている。	週2回が基本だが、湯船に入る事が難しい人はシャワー浴、足浴等で対応したり、入浴を好まない人には全身清拭や足浴で清潔保持をしている。コミュニケーションを取りながら楽しく入浴してもらう事を心がけ、菖蒲湯や柚子湯をして季節感も感じてもらい喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝を促し、休息をとるようにしている。日中はなるべく身体を動かしたり、穏やかに過ごせるよう支援し、夜間の安眠に繋がる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が内服している薬、副作用、用法等確認し理解している。日々の様子観察で変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーの好きな方は昼食後に飲んでもらっている。洗濯物干し、縫い物が出来る方は、していただいている。また、お天気のいい日は庭での散歩について浴い、気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響でほとんど外出できていない。	コロナウイルス感染がなかなか収束しない中ではこれまでのような外出が思うように出来ないが、それでも桜、コスモス等の咲く季節には何とか出かけるように努力して、ホーム近辺に花見に行ったりドライブに行ったりと、季節を感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	asete	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり保管・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望あれば、家族に電話するようにしている。その時、本人と代わり話をする事もある。自らかけたりする事はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保っている。騒音や声のトーン、大きさを不穏になりやすいので、気を付けている。季節感を出す壁面など工夫している。	コロナ禍で外出自粛の中、利用者の皆さんにどうして刺激を与えられるか職員間で考え、試行錯誤しながら次々とアイデアが生まれ、リビングの中は手芸作品や手作り神社等が展示され、華やかで楽しい空間になっている。その中で利用者は自由に思い思いに好きな事、得意な事をして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で歩ける方は自由に居室に戻り、ゆっくりしている事もある。又、ソファでおしゃべりしたり、好きな時代劇を観たり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを設置したり、本人の好む物を居室に置いている。ぬいぐるみが好きな利用者は、居室でぬいぐるみと会話をしている。写真を沢山貼っている利用者もいる。	これまで過ごしてきた環境に近いような設定にしてあり、畳の部屋もあれば、仏壇を持ち込まれたり、趣味の作品を飾ってる人もいる。どの居室も個性的でその人らしい居心地の良い環境になっており、中にはクッションマットを敷いたり、手すりを設置して安全対策をしている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さを利用者に合わせたり、トイレの手すりの位置が使いやすい方を使ってもらうなど利用者が安全に可能な範囲で自立できるよう配慮している。		